

式 辞

二〇一六年、平成二十八年四月十四日、熊本地震が発生しました。島原市では震度5強・県北でも震度4の揺れを観測したこの地震は、世知原少年自然の家で新入生宿泊研修を行っていた、松高五十五回生の皆さんにも襲いかかりました。大きな恐怖のため、一晩中眠れなかった生徒も多かったことと思います。

こんな大変な中、スタートした高校生活。しかし、皆さんは元気いっぱい、授業や部活動、学校行事に取り組んでくれました。当時のキャッチフレーズは、五十五回生入学・創立五十五周年とかけて『GO! GO! 松高』だったと聞いています。

男子バスケットボール部が同好会として発足したのも、野球部の応援でビックNまで全校応援に出かけたのも、この年でした。

二年生になると、松高の中心学年として「生徒が主役の学校行事」を、カー杯盛り上げてくれました。生徒会活動も非常に盛んで、今一年生が着ている新しい制服も、自分たちの手で創り上げてくれました。そして地域課題解決型の学習『まつナビ』が本格的にスタートしたのも、あなた方の学年でしたね。

三年生に進級する春には、なぎなた部が全国選抜大会第三位という快挙を成し遂げ、冬には陸上部が、県高校駅伝で六年ぶりの優勝を飾ってくれました。

ただ、どれもこれも自分一人では、成し遂げられなかった、ということを忘れないでください。

ある時には切磋琢磨し、ある時には励まし合った仲間や先輩後輩。いつも優しく支えてくれた家族。温かい目で見守り、応援してくれた地域の方々。手厚い支援で、松高の魅力化を推進していただいた松浦市。そして、陰に日向にサポートしていた先生方。

多くの人に支えられ、多くの人に助けられ、今日の、この日を、迎えることが出来たのです。

詩人・吉野弘さんに、『虹の足』という作品があります。

【省略】

どんなに自分が恵まれていて、どんなに自分が幸せなのか、自分では気づいていないことが、よくあります。

松浦高校は、美しい虹にすっぽりと包み込まれているのに、松浦高校で過ごす者には、それが見えていない。市外の人には、松浦の素晴らしさがよく分かっているのに、松浦で暮らす私たちはその幸せに気付かずにいる、という意味で。

松浦には、素晴らしい自然と歴史と、豊かな食文化があります。松浦には沢山の仕事の間があって、ビジネスチャンスもたくさん存在しています。何より都会では、味わうことの出来ない地域のつながりと、

人々の温かさがあります。

私が好きなもの。それは、この松浦高校と、あなたたち松高の生徒と、自然と人の温かさにあふれる松浦です。

限りなき、紺碧の天空。そして陸だけでなく、人と人ともつなぐ、雄大な鷹島肥前大橋。

土谷の棚田から見える、果てしなく広がる水平線。

青島へ渡るフェリーからは、きらきら光る海と無数の養殖筏を眺めることが出来ます。島のあちこちからは、子どもたちの歓声が響いています。

上志佐から滝野・伊万里へ抜ける、山間(やまあい)の田んぼや畑。その中を縫うように流れる川のせせらぎ。

そして、いつも温かな目で見守り、優しく声をかけてくださる、地域の方々。

先日『松浦未来会議』が開かれ、松高の一・二年生も積極的に参加してくれました。その中で、これから社会に巣立っていく皆さんにとって、重要な指針、いくつかのヒントが示されました。

その一つが、人任せにしない町づくり、私たちに出来ることは何だろうと考える、という視点です。

入学式でも引用した、アメリカ・ケネディ大統領の「一人一人が合衆国のために、何が出来るか、考えてほしい」という言葉と、相通じるものがあります。

誰かに、何かしてほしいと待つばかりではなく、自分には何が出来るか考え、出来ることからやってみようという、主体性の大切さが込められています。

もう一つは、人と人とのつながりは、大きな力となるというものです。

昨年の夏、甲子園で大活躍した金足農業高校は、部員十八名全員が地元出身、試合があれば甲中の人がテレビで応援するという、人と人とのつながりが大きなパワーとなりました。

挨拶の挨拶という字は心を開く・挨拶の拶という字は相手に迫る、という意味だそうです。心を開いて相手に迫ることは、ネットの架空世界ではなく、リアルな現実世界の人と人とのつながりにとって、何より重要なことだと思います。

卒業生の皆さん。これから社会に出ても、自分に出来ることは何だろうと考えながら、人と人とのつながりを大切にしていってください。

厳しい寒さの中にも、確かな春の息吹が感じられる、今日のこの佳き日。多くのご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成三十年度 長崎県立松浦高等学校 第五十五回卒業式を挙げていくことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びであります。これも、ひとえに関係の各中学校の先

生方、地域のみなさま、そして松浦市のお力添えのたまものと、深く感謝しております。

さきほど、八十四名の卒業生みなさんに卒業証書を渡しました。卒業生みなさん、本当におめでとう。

保護者の皆様、心よりお祝い申し上げます。

高校の卒業は、保護者の皆様にとりましても、特別に感慨深いものだと思います。三年前お預かりしたお子様たちが、心身ともに、たくましく成長され、今まさに社会に巣立っていかれようとしています。保護者の皆さまのお喜びはいかばかりかと、拝察いたします。

本校は「『自己開拓』に全力を注ごう。正しい人間関係を築いていこう。よき市民性を身につけよう。」という三本の柱を校訓に掲げ、松浦市からの手厚い支援と市民からの熱い期待を受け、学校の魅力化を推し進めているところです。そして今後も、地域の皆さまから愛される学校を目指し、学校改革を進めていく所存です。

最後になりましたが、卒業生の皆さん。

いつまでも、あなた方のとびっきりの笑顔を忘れないでください。みなさんの明るさと笑顔は人を幸せにする力があります。そしてその笑顔は、自分自身をも、幸せにしてくれるのです。何より、苦労や困難を乗り越える力を与えてくれるのも、その笑顔です。

卒業しても笑顔で頑張るあなた方に負けないように、松高も笑顔で頑張りたいと思います。

だからこそ、笑顔で、

「行ってらっしゃい」

平成三十一年 三月一日

長崎県立 松浦高等学校長 中 上 徹